

『姫路市書写の里  
美術工芸館』様にて  
1/6～ 現代根付展  
が開催されてます。

本年1月6日(火)～3月31日(火)に、兵庫県姫路市にあります書写の里美術工芸館さまにて、新春特別展「根付<NETSUKE>～手のひらの宇宙」を開催いたします。当館所蔵作品から、さまざまなテーマに沿った芸術性の高い根付250点あまりが一堂に展示されます。現代根付は伝統から脱却した自由な発想と表現で創作されています。思わず発見に笑みがこぼれる現代根付ならではの魅力をお楽しみください。姫路市近隣のゆかりの作家の作品も並びます。

『美術手帖』1月号ブックインブック  
に特別企画で掲載されました。

『美術手帖』は1948年創刊以来、国内外の現代美術の最前線を紹介し続ける美術専門雑誌です。昨年12月に発売された最新刊(2026年1月号)のブックインブック

にて、京都 清宗根付館と姉妹館の清宗記念館が掲載されています。両館の館長である木下宗昭が収集した日本画家の鹿見喜陌(しかみきよみち)先生の絵画コレクションと現代根付を特集して、パトロネージとアートの関係を探るという意欲的な企画となっています。京都迎賓館や内閣総理大臣官邸に作品が飾られている鹿見喜陌先生が木下館長と出会うなかで作品が変遷していく足跡をたどっています。また根付作家では、山本伊多呂氏と及川空観氏、副館長大西弘祐が現代における根付の意義を語っています。



## 根付の分類 根付はその形状から、一般的に以下のタイプに分類されます。



**形彫根付**  
(かたぼりねつけ)

最も一般的で、人物や動物などを題材にした根付が多く、基本的には360度(六方正面)に彫刻が施されています。



**饅頭根付**  
(まんじゅうねつけ)

江戸初期の帯車(おびぐるま)根付から派生したもので、実用的な饅頭型をしています。蒔絵漆(まきえうるし)や、浮彫りなどが施されます。



**鏡蓋根付**  
(かがみぶたねつけ)

饅頭根付の片側を丸くくり抜き、主に金工の技を凝縮した蓋(ふた)をはめ込んでいます。



**面根付**  
(めんねつけ)

能面や狂言面、伎楽面、七福神を象った面を根付にしたものです。



**宮<箱>根付**  
(はこねつけ)

蒔絵(まきえ)や螺鈿(らでん)で加飾した箱状の根付で、天板裏に紐通しを付け、底板に紐孔を開けています。



**柳左根付**  
(りゅうざねつけ)

柳左という考案者の名前で、饅頭根付全体に透かし彫りを施して、繊細さを出しています。

## 2026年 4月～6月の特別企画展のご案内

知的好奇心は  
根付から始まる。『根付百科事典』展

4月「自然:季節を彩る風物詩」展 ■4月1日(水)～30日(木)

5月「生物:輝きの生命賛歌」展 ■5月1日(金)～31日(日)

6月「科学:進化と英知の物語」展 ■6月2日(火)～30日(火)

京都 清宗根付館 公式YouTube チャンネルを開設しました。今までの公式Twitter、Instagramでも、最新情報や作品画像を発信していますので、皆様のフォローをお待ちしています。



公式サイト

佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館および清宗記念館を支援しています。



## 京都 清宗根付館 とは

当館は、佐川印刷株式会社取締役名誉会長 木下宗昭による「日本のよき伝統を、日本人の手によって、日本に保管したい」という発意によって、ここ文化首都・京都に設立された、日本で唯一の根付を専門とする美術館です。当館では、「新たな挑戦」と「絆」をむね(宗)とし、根付と根付をめぐる文化の継承・創造・発展を目指し、＜魅せる＞＜育む＞＜繋がる＞を使命に、地域と皆さまに開かれた美術館として活動しています。



現代根付

Contemporary  
Netsuke  
Newsletter

Salon



WINTER ~ SPRING Issue. 23

〔目次〕

- 企画展の見所
- 根付館便り
- 根付の分類

〔発行元〕

公益財団法人 京都 清宗根付館  
〒604-8811 京都市中京区壬生  
賀陽御所町46番地(壬生寺東側)  
電話 075(802)7000  
www.netsukekan.jp/



日本で唯一の現代根付専門美術館 京都 清宗根付館『企画展』のご案内

## ウマくいく、ウマれる春の予感 『根付の幸せ』展

新年を迎え、干支の巡りは午(馬)となりました。馬は古墳時代中期(5世紀前後)に朝鮮半島から渡来したとされ、それ以来日本人の暮らしを支え、共に歩んできた歴史があります。神社に奉納される絵馬は、もともと馬が神の使いとされていたことに由来します。そのため馬は「願いを届ける存在」「福を運ぶ動物」として特別な意味を持つようになりました。また力強く前進することから、勝利、成功、商売繁盛など前向きなイメージのシンボルとされてきました。縁起の良い動物として「馬九行久(うまくいく)」との語呂合わせも知られています。

幸先の良い幕開けを祈念して、根付に見られる幸せの表現に焦点を当てて紹介します。

1月は「めでたい根付」として、新春を寿ぎ古今東西くまなく縁起の良い題材を作品にした根付を集めて一年の門出を祝います。2月は「笑いを誘う根付」を特集します。笑うことは陽の気を取り込み、魔を払うと信じられ、快活で明るい一年になることを願い、楽しく面白い根付たちを紹介します。3月は「めでたい瑞獣根付」と題し、鳳凰や龍、獅子など吉祥をもたらす霊獣あらたかな神獣を通して、世の中の平和や安定を願います。

「めでたい根付」展  
「笑いを誘う根付」展  
「めでたい瑞獣根付」展

「馬九行久」展  
「めでたい根付」展  
「笑いを誘う根付」展  
「めでたい瑞獣根付」展

The  
HAPPINESS  
of  
NETSUKE

BOOST YOUR FORTUNE THIS  
NEW YEAR WITH NETSUKE

2026年 1月6日(火)～3月31日(火)

幸せ展

公益財団法人 京都 清宗根付館  
Public Interest Incorporated Foundation  
KYOTO SEISHU NETSUKE ART MUSEUM

〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町46番地1(壬生寺東側) TEL. 075(802)7000

SAGAWA PRINTING

佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館と清宗記念館を支援しています。

告知ポスター



1月

■ 1月6日(火)～31日(土)

「めでたい根付」展

「めでたい」の語源は「愛(め)づ」+「甚(いた)し」と言われます。「愛づ」とは、褒める、讃える、慈しむという意味で、「甚し」とは、はなはだしい、大いにという意味で、つまり「めでたい」は「大いに讃えるべき」という意味を持ちます。また「珍しい」も「愛(め)づらしい」が語源とされ、「好ましくてもっと見ていたい」という意味があります。「め(愛)でたい」ことは、そうそう頻繁にあるはずがない「め(愛)ずらしいこと」だとも言えます。根付はまさに愛でられるために存在してきました。新年の幕開けにふさわしい「めでたい根付」で福を呼び込みます。

2月

■ 2月1日(日)～28日(土)

「笑いを誘う根付」展

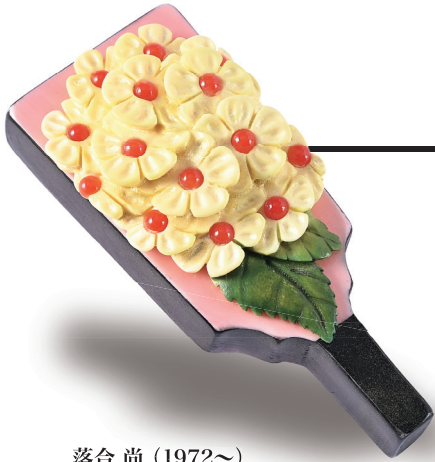
根付は遊び心にあふれ、洒落や滑稽味で笑いを誘い、常識にとらわれない視点をもたらして、見る人を楽しませる工夫を凝らしています。笑いは生活の潤滑油であり、陽の気を引きこみ、魔を払うとされます。日本美術でも遊び心は伝統を打ち破る自由な精神や挑戦を表現するものであり、根付でも遊び心は自由な想像を広げ、予定調和に疑いを持たせることで、今までの世界に新たな意味を問い続けています。その洒脱さや諧謔さは「ひねり」と呼ばれています。娯楽を楽しむ庶民感覚は現代の作家たちにも引き継がれ、それぞれの遊び心を楽しみながら、創作に向かっています。

3月

■ 3月1日(日)～31日(火)

「めでたい瑞獣根付」展

瑞獣(ずいじゅう)とは、めでたいことや吉祥の前触れとして現れるとされる想像上の動物たちの総称です。古代中国に由来するとされますが、日本に伝来してから日本の風土や神道と習合し、独自の進化を遂げて絵画や寺社建築などに表現されてきました。龍、鳳凰(ほうおう)、麒麟(きりん)、霊亀(れいき)は「四瑞(しずい)」とされ、また青龍・朱雀(すざく)・白虎・玄武は「四神(ししん)」とされて信仰を集めてきました。根付においても世の中の平和や安定への願いを瑞獣に託し、風格漂う姿で表しています。瑞獣や神獣たちが繰り広げる吉祥の世界をお楽しみください。



落合 尚 (1972～)  
「迎春」 高7.0cm  
象牙

邪気を跳ね返すといわれる羽子板は厄除けのシンボルとされます。そこに「春告草」と呼ばれ、縁起が良いとされる福寿草を敷き詰めて福尽くしに。



若林 寛水 (1955～)  
「蝙蝠(こうもり)」 高3.6cm  
象牙

蝙蝠は、中国語で「蝠(ふく)」と「福(ふく)」の音が同じであることから縁起の良い動物とされ、日本でも「幸盛り」「幸守り」とされました。



尖戸 濤雲 (1960～)  
「鯛」 高3.0cm  
黄楊・べっ甲

魚の王様と称えられ、その紅白の色合いが吉祥とされ、また数十年生きることから不老の象徴とされ縁起がよい魚とされます。めでたい(鯛)との語呂合わせも。



上原 万征 (1975～)  
「ふくら雀」 高3.4cm  
マンモス牙、水牛角、十八金

寒さで羽毛に空気を含ませてふっくら(福良)丸くなった雀を福良雀と呼び、縁起が良いとされます。おめでたい席で結ばれる帯結び「ふくら雀」とともに。



立原 寛玉 (1944～)  
「かける」 高4.8cm  
象牙

一日に千里を走り、血のような汗を流すという伝説的な名馬として中国の神話から語り継がれる「汗血馬(かんけつば)」の威光と名誉にちなんで。



森 謙次 (1974～)  
「河馬蒲焼」 高5.0cm  
イスの木・紫檀・黄楊・鹿角

ご覧の通り河馬と蒲焼という駄洒落になっていますが、天然素材のそれぞれの色合いを活かしながら素材を嵌めこむ伝統的職人芸が光ります。



及川 空観 (1968～)  
「天愚」 高3.5cm  
朝熊黄楊・鹿角・へご

大天狗に憧れる鳥天狗が必死に鼻を伸ばそうと引っ張っています。でも指を離すともとの鳥天狗に。背伸びするよりもありのままの自分で。



森 哲郎 (1960～)  
「一休 虎退治」 高3.5cm  
象牙

「屏風に描かれた虎を捕えよ」という將軍の命に「虎を追い出してください」と頓智で応えた一休さん。油断していると屏風の背後にうごめく影が！



宮澤 彩 (1949～)  
「ひと休み」 高3.6cm  
象牙

「カッパノベルス」は戦後日本のミステリー・エンターテインメント小説界を牽引してきました。読書中の河童もそろそろひと休みに。



高木 喜峰 (1957～)  
「招本」 高2.6cm  
象牙

良きことを招くとされる招き猫が本を作って「招き本」。本好きの作者本人の理想かもしれません。猫が6匹で「六猫(むびょう)」とも掛けしています。



阿部 賢次 (1947～)  
「白澤(はくたく)」 高3.1cm  
象牙

伝説の瑞獣として知られ、人間の言葉を話し、万物の知識に通じ、災厄や疫病を退ける力を持つと信じられています。徳の高い為政者の治世に現れます。



栗田 元正 (1976～)  
「鳳凰」 高5.7cm  
鹿角

平安の象徴とされ、慈悲に満ちた智慧を備えるため、困難な時はその姿を見せず、聖天子が出現した際に現れ、愛と再生をもたらすとされます。



井尻 朱紅 (1954～)  
「鳳凰」 高4.8cm  
黄楊・蒔絵

そもそも鳳が雄、凰が雌をあらわすともいわれ、番(つがい)で鳳凰とされます。桐に宿り、竹の実をついばみ、永遠の時を生きるといわれています。



永島 信也 (1986～)  
「レッドドラゴン」 高3.8cm  
黄楊

紅い素材を活かし、ファンタジーゲームから飛び出してきたような作品です。アジア圏での龍と異なり、皮膜の翼を持ち、犖猛な性格を帯びています。



齋藤 美洲 (1943～)  
「麒麟」 高6.8cm  
象牙

百獣の長とされ、麒麟は雄(オス)、麟は雌(メス)を表し、慈しみ、思いやりを持った動物で、生きている虫を踏まず、草を折らない仁獣とされます。